

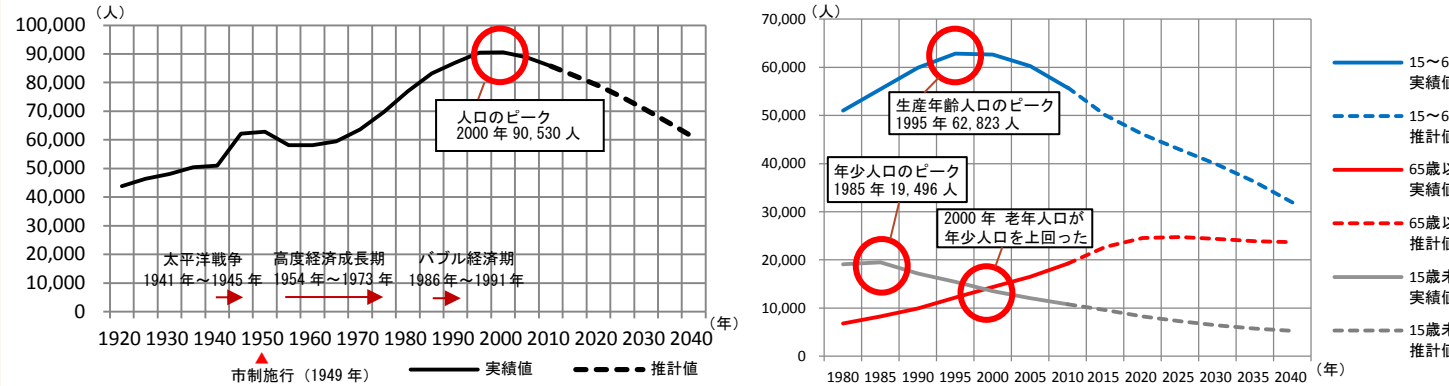
# 行田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【概要版】

## 1 人口動向分析

### 人口の推移と推計 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 総人口**：現在は人口減少の第1段階→2025年(平成37年)には老年人口が微減・維持する第2段階へ移行→2040年(平成52年)には60,879人【30年間で△29%】
- 年少人口**：2040年(平成52年)には5,261人【30年間で△51%】
- 生産年齢人口**：2040年(平成52年)には31,929人【30年間で△43%】
- 老年人口**：2025年(平成37年)から微減→2040年(平成52年)には23,689人【30年間で+23%】

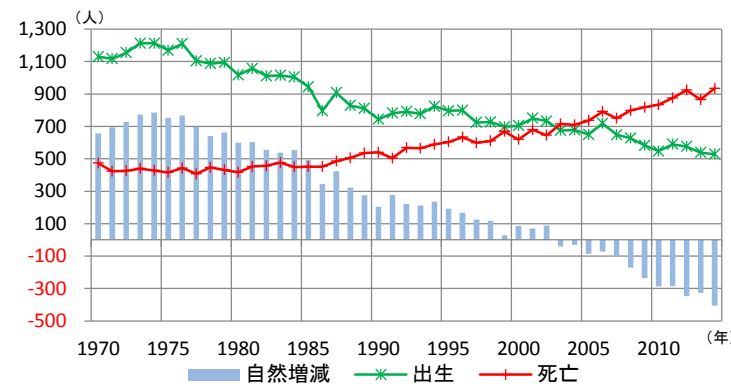
### ●人口推移と将来人口推計 (資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)



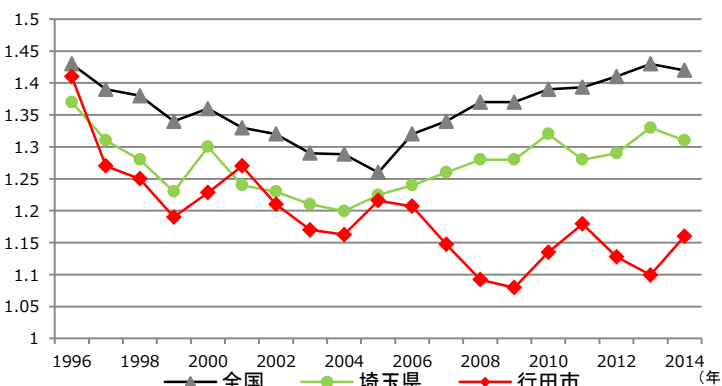
## 自然動態

- 自然増減 (出生数-死亡数)**：2003年(平成15年)から自然減が継続し、2014年(平成26年)で△405人
- 合計特殊出生率 (2014年)**：1.16で、全国(1.43)と埼玉県(1.33)を下回る  
15~49歳の女性人口の減少及び未婚率の増加が、低下の一因と考えられる

### ●出生数・死亡数の推移



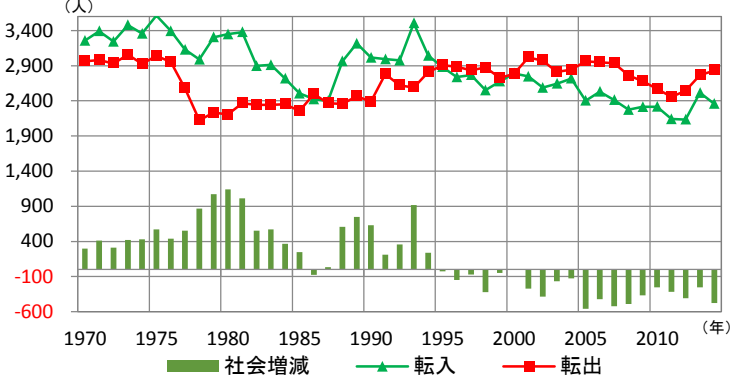
### ●合計特殊出生率の推移



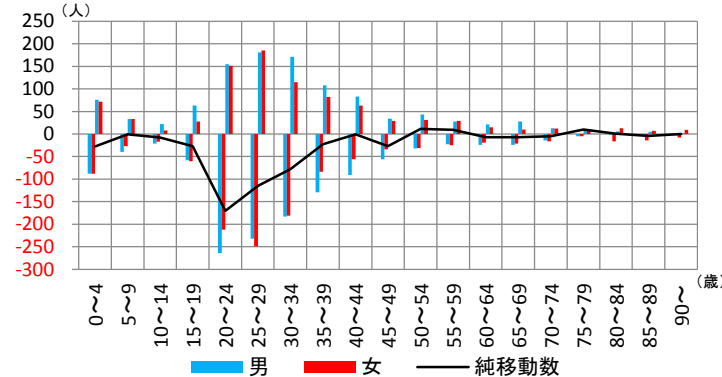
## 社会動態

- 社会増減 (転入数-転出数)**：1995年(平成7年)から社会減が継続し、2014年(平成26年)で△470人
- 人口移動**：20歳~34歳の就職や結婚などの人生の転機を迎えた若い世代が、転入・転出ともに多数を占める  
25歳~29歳では、女性の移動が男性の移動を上回る

### ●転入数・転出数の推移



### ●男女年齢階級別人口移動 (2014年)



## 2 目指すべき将来の方向

### ■現状と課題の整理

- ・人口構造と人口動向の現状から見て、今後も人口減少が見込まれる
- ・人口減少の対応としては、就職・結婚・子育て世代に対する施策が特に重要
- ・若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望実現と人口の社会減の改善により人口減少抑制と人口構造の若返りを図る

### ■基本的視点

#### 視点1 若い世代の流出抑制と流入促進

若い世代の人口流出に歯止めをかけるとともに、これらの世代に選ばれる魅力あるまちづくりを実践することにより、本市への人の流れを促進し、人口規模の確保を図る

#### 視点2 若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望の実現

若い世代が本市に住み、希望どおり就労・結婚・出産・子育てすることができる社会環境を実現することにより、将来的な人口構造の安定と若返りを図る

#### 視点3 地域課題の解決と本市の特徴を活かした地域活性化

人口減少に伴う地域課題の解決を図るとともに、本市の特徴や強みを最大限に活かした地域活性化策を展開することにより、将来にわたって安心して充実した生活を送ることができる地域社会を実現する

## 3 人口の将来展望

### ◇人口の将来展望◇

目指すべき将来の方向を達成することにより、2060(平成72)年に人口規模57,000人の確保を目指す

### ■将来展望の想定

※自然減、社会減が段階的に改善する仮定値を設定

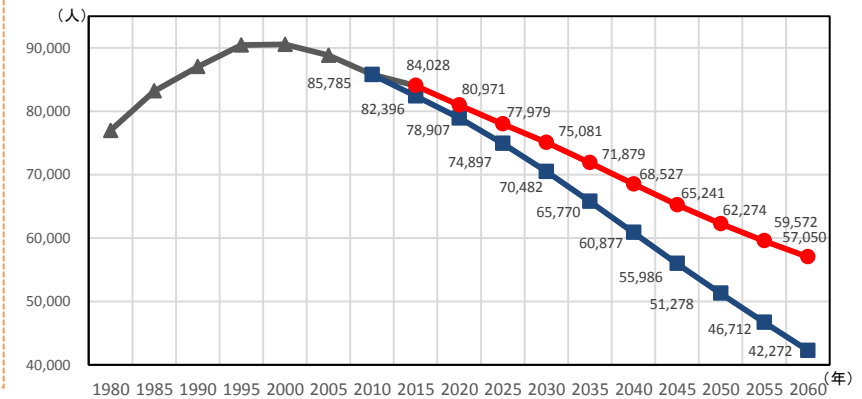
### ●合計特殊出生率

- 10年で0.2上昇
- \*国のまち・ひと・しごと創生本部と同様の想定
- \*2060年(平成72年)に人口置換水準を達成

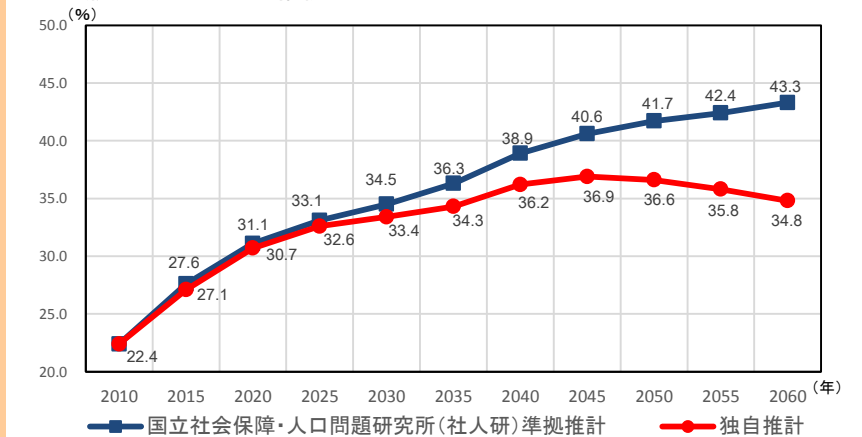
### ●純移動率

→2025年(平成37年)以降の純移動率はゼロ(転入が均衡)

### ●総人口の推移



### ●65歳以上人口比率の推移



### ■社人研準拠推計と将来展望との比較

※2060年(平成72年)時点

- 総人口**：35.0%(14,778人)増
  - ・社人研準拠推計・・・42,272人
  - ・将来展望・・・57,050人
- 65歳以上人口比率**：8.5%減
  - ・社人研準拠推計・・・43.3%まで増加
  - ・将来展望・・・2045年(平成57年)の36.9%をピークに、2060年(平成72年)には34.8%まで減少